

「新校舍建設寄付募金」最終報告

母校々舎移転及新築資金の一部にと
一昨年来、同窓生の皆様に、御寄付を
仰ぐべき募金運動、又それに併せて三
回にわたり皆様方の出品による御協力
に依つてバザー等の活動を行つて参り
ました。目標額には後、一步という処
でしたが、お蔭様にて、六百万円余に
のぼる母校への愛校精神が集結され、
去る六月一日に執り行われました竣工
式の際、同窓会会长より学校側へ金六
百万円の寄付金の贈呈がなされました
事を、ここに御報告申し上げます。
皆様の御協力に感謝し、これを機に
母校発展と啓明女学院金星会の輪が、
一層大きく広がるものと信じております。



同窓生便り

四回生 松葉 牧子(旧姓後藤)

私は、只今半世紀を迎えようとしています。女性の平均寿命約八十歳とすれば、残されし三十年どのように生きようかという課題に挑戦。県の夜間婦人大学に入試なしで入学、無事卒業。卒業後OB会を県の指導で結成、月一回自己研鑽のため会場、講師の依頼と走り回っています。又幼稚園教師生活も三十年勤続を、二年後に迎えようとしています。果して健康で送れるかと昨年より週一回神戸体育館へ太極拳と、休日は食卓に無農薬の野菜をと、五十坪の畠仕事に主人ともども汗を流しています。若い時には到底考えられなかつた老後の事、遠藤周作の話に『時節到来』といふ言葉の意味を痛切に感じております。皆さんも四十歳過ぎれば、当然考える時期が来ます。自分との勝負と言ひ聞かせ、努力している姿、子供はよく見ています。「為せば成る」、年だからと逃げないように、四十歳でカーライセンスを取り、又違う景色が見え始めました。皆さんもあらゆる物に好奇心を持ち、頑張つてアタックしたら如何?と思う今日此頃です。

五回生 那須喜久子(旧姓天羽)

恩師並びに旧友の皆様に、はるかオーストラリアのメルボルンからハローを送ります。どつりと重厚な建物や落ち着いた町の雰囲気は、以前駐在生活を送った底抜けに陽気で明るいブリジルとはガラリと様子が違つていて、つくづくと民族性の違いを感じました。英語の生活中では、啓明時代に教え込まれた発音の正確さと会話力が大いに役立っています。そして今年はメルボルン日本人会の婦人会長に選ばれ三五〇名の会員と共に地元の婦人会との交流やボランティア活動など豪日親善の為に大いに張り切つて居ります。

六回生 鈴木八重子(旧姓北浦)

長い間、千里に於て文化教室をまかされておりましたが今年三月にそこを退職いたしました。そして新しく豊中で文化教室をまたがれて四月に開校しました。手芸・語学・スポーツ等、約三十近い教室を開いております。その責任者として毎日仕事にはげみ、私の第二の人生を楽しく歩んでおります。近くにお出かけの折にはぜひお立ち寄り下さい。豊中千里のバスで野島小学校前で降りて下さい。電話は(06)848-1300です。

生きがいのある日々

七回生 田中悦子(旧姓植田)

十回生 山田烈子(旧姓木全)

卒業して今年で二十五年、六年間通つたシャレタ校舎を懐かしく想い出しながら巡る歳月の早さを実感するこの頃です。主婦の座に甘えることなく、社会と接觸を持ち、常に外に目を向けて、自分の生き方をみつめたいと考え、ボランティア活動を始めて九になります。今は朗读ボランティア養成講座の講師として、市内はもとより、竜野や赤穂方面まで出向し、後輩の指導に当っています。人の持つ善なるおもい、それぞれの能力を提供し合うことで、共に住み良い社会が生まれます。その中で自らも育てられ、有形無形の何かを得て、それは貴重な財産です。興味ある方はお声をかけて下さい。

十八回 兼松 清子(旧姓森川)

十二回 兼松 清子(旧姓森川)

卒業以来十年が過ぎました。本当に月日の流れは早いものです。学校の前を通るたびに懐かしく思つております。その姿も見られなくなり、とても寂しく思つています。人生の後半に入りまして、ようやく「学ぶ」とは、本当はどういうことなのか、わかりかけてきている思いがします。十八歳と十四歳の娘に負けじと、学び、知識と経験を得ることによつて、自分自身も変わっていくプロセスなのだと考るる今此の頃だからです。

十四回生 花田真佐子(旧姓佐藤)

私も今年七月で、四十歳になりました。人生の後半に入りまして、ようやく「学ぶ」とは、本当にどういうことなのか、何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

十五回生 ブラッドショー(旧姓中尾)

皆様、この度は新校舎への移転を心よろしくお喜び申し上げます。今、振り返ってみると小じんまりした西欧風の校舎で勉強したのも、つい昨日の事の様に思われます。社会人になって、パンク・オブ・アメリカ、キャセイ航空、ベルリック・チャーチで結婚し、二年後に、主人の仕事の関係で又、神戸に帰つて参りました。一九七一年には英国人の主人とヨークシャーで結婚し、二年後に、主人の仕事の関係で又、神戸に帰つて参りました。娘はアメリカン・スクールの六年生になります。今、私は、コミュニケーション・センターで就職し、二年後に、主人の仕事の関係で又、神戸に帰つて参りました。西在住の外国人の為の生活情報・文化教室等を提供するボランティアのグループで手伝いをさせて頂いております。学院のますますのご発展と皆様のお幸せを、お祈り申し上げます。

十六回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

毎年一回を実行して、五十七年十月三日日曜日は、母校北校舎においてのクラス会。翌年に新校舎に移転が決っていたので此の度は想い出多い場所を選び母校のお世話になりました。吉田栄先生(旧丸上)中村尚子先生をお迎えして十五名が集いました。

十七回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

十八回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

十九回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十一回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十二回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十三回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十四回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十五回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十六回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十七回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十八回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

二十九回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十一回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十二回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十三回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十四回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三五回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十六回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十七回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十八回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

三十九回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十一回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十二回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十三回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十四回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四五回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十六回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十七回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十八回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

四十九回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十一回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十二回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十三回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十四回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五五回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十六回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十七回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。

五十八回生 佐藤千恵子(旧姓佐藤)

何十年振りかで母校を訪れ当時の姿を幾らか止めていたものの、変化に時代の流れが、胸に押寄せ懐かしさと、寂しさが交叉しました。